

A—29 アルキル硫酸ナトリウム水溶液濃度の測定法について

活水女子短大 ○山中久美子
古場 久代
岩原 しげ

1) 目的。界面活性剤は、洗滌の他に、食品の強化、加工にも利用されるに至って、簡便な濃度測定、および種類判別は、調理関係でも必要を感じる。更に界面活性剤は今後食品の品質保持、改善にと利用される傾向があるのでわれわれは簡易でできるだけ精密な濃度測定法を検討している。

2) 方法。エプトン法、電気伝導度法は、簡易であるが、やや難点もあったので、滴重法、毛細管による表面張力法を採用して検討。更に滴重法に用いたピペットを改良したもので目下継続実験中である。

3) 成果。改良ピペット（仮称）（未発表）は、気泡作製の点で考慮を払った。界面活性剤の表面張力が濃度によって特異な変化の傾向を示すこと、および、用いた試料の表面張力の近似値が目下えられつつあるので、筆者の創案による表面張力測定装置の説明および、結果について、報告内容としたい。